

# 令和6年度 「保育所の自己評価」結果について

令和7年3月24日  
社会福祉法人 ゆめ和  
ゆめ和ほいくえん

ゆめ和の“保育理念”を基盤とし、今年度本園の職員で取り組んできたことについてのご報告をさせていただきます。

## 〈目標〉

- 「一つ一つの質の改善」
- －「先生大好き」の関係作り 一緒に遊ぶ－

## 〈課題〉

- 計画通り、保育を全職員で、しっかり準備して進める。
  - ・ 目的やねらいを把握・理解し、環境を整えて保育を進める。
  - ・ 領域別の発達を抑えた指導計画の作成。
- 季節ごとの行事やサークルを、今までのやり方にこだわらずクラス単位で考え実践する。
  - ・ 行事やサークルをどのようにクラスに還元するか考え、計画・準備・実践する。
  - ・ 遊びのテーマを決め、計画し、実践報告をする。どうであったか保育の経過を記録。
- 個と集団が育つ「保育」
  - 0～2歳児 ① 子どもを待たせない。保育士間のスムースな動き。
    - ・ 一人遊びをしっかりと保障する。
    - ・ 保育室の環境を年間を通じて考え、変えていく。
    - ・ 各年代の基本的生活習慣を着実に身につける。
  - 3～5歳児 ② 各年代の基本的生活習慣を確実に身につける。
    - ・ 子ども達に遊んでもらう。遊びの継続。
    - ・ 子どもから「明日もやろう」の声が出てくる保育。
    - ・ 朝の会、帰りの会の重要性を社会問題等含め伝えていく。
    - ・ 幼児の生活の流れを言われないで自ら動ける。
      - 1日を子どもが見通せるようなアプローチを行う。
    - ・ 保育士が文化を語る。
- 職員
  - ・ 荷物の渡し忘れ、入れ間違いを出さない。
  - ・ 幼児のトピックスを職員皆で考え軸を作る。
  - ・ 保育の見える化を考える。
  - ・ 保護者や地域の方などに積極的に声を掛け、コミュニケーションをとることを心がけた。園庭開放・交流保育では参加者が増えるアプローチを計画・実施した。

## 〈課題に対する取り組み・保育効果〉

- 0～2歳児 — “子どもを待たせない”を大切にした保育—

年齢なりの子どものやりたい気持ちを大切にしながら、子どもが好きな遊びを選択し、遊び込めるように関わった。また、子どもの発達や成長に合わせて、保育士が環境を整え個々にアプローチする事で、自分でできる事が増えていった。

### 【0歳児】

4月からまずは“先生大好き”の関係性作りと、6月までに泣かずに登園出来るようになることを意識して、一日でも早く子どもの好きなものを見つけられるよう努めた。また、一対一のふれあい遊びやベビーマッサージを中心にゆったりとした関わりを多く取り入れた。結果、5月中旬には全員が泣かずに登園することが出来ていた。夏季は室内やオーニング下、裏庭で過ごすことが多く、ここから二期までの個々の活動量が乏しかった。時に月齢ごとに分かれて過ごすを取り入れるなど、0歳児の高月齢児と1歳児の合同の機会をもっと増やすべきだった。涼しくなってからは散歩に向けて、園庭や園周りから保育士と手を繋いで歩行することを重ねていった。ただ歩くのではなく正しい手の握り方を伝えることや、個々のペースを把握して、園外に出る散歩を見通していった。保護者の方に園を利用する上でのお願いとして、記名やロッカーの補充等、こちらから伝えていくことの徹底を目指し試行錯誤を重ねたが、足りなかった。

### 【1歳児】

1日を通して、戸外で身体を動かして遊ぶことや室内から園外への探索活動を十分にできるように取り組んだ。友達と手を繋いで歩く事は散歩に出たたびに上手になっていったが、年間を通して散歩に出た数は決して多くはなかった。それにより道の端を歩く事や前の友達についていくなど、保育士の計画不足や見通しが甘かった事で、散歩での課題が残ってしまった。生活の中で大切にしてきたことは、自分の物が分かり、身の回りの事を自分でやろうとする事。タオル掛けやコート掛けに子ども達のシンボルマークをつける事で意欲的に自分で支度ができる環境作りをした。また、どこで遊ぶのか、次に何をするのかが視覚的に分かりやすいように写真を提示しながら言葉を添える事で、少しずつ言葉と場所・動きが一致するようになり、目的が分かり行動する姿も見られるようになった。排泄では、家庭と園で取り組んでいる事を共有していったことにより、クラスの半数以上の子どもが布パンツで1日過ごせるようになった。遊びの面では、全身を動かして遊ぶ事と同時に指先を使った遊び、製作を多く取り入れた。食事での食具を持つ事に繋げたり、様々な素材に触れながら集中して遊ぶ事を大切にした。友達がやっている事に興味を示して見たり話したり、真似たりする事で友達同士のやりとりも少しずつ増えていったが、ケンカや玩具の取り合いの際に噛みつきを起こしてしまうなど、保育士の配慮不足や環境作りの課題が残った。

## 【2歳児】

2歳児なりに“けじめ”を大切にしてメリハリが持てるように保育を進めてきた。遊びや生活中でダメなことはダメと伝え、理由も伝えることで子ども達の中に“〇〇だよね？”と確認する姿が見られ、今では友達に伝える姿も出てきた。運動会以降はカレンダーに印をつけて“この日は〇〇の日”と行事や活動を楽しみにできるようにした。生活面は繰り返すことを大切にしてきた。毎日、行うことで自分でできることが1つずつ増えていき、子ども達の自信に繋がり“少しだけ”難しいことに挑戦したい気持ちが強くなってきた。また、一年間を通して遊びながら指先を使って楽しめることを取り入れてきた。散歩は道路の端を歩くことや間を詰めることができるようにになってきて、八景公園まで行けるようになった。長距離を歩ける体力がついてきたことや転んでも泣かなくなった子ども達の姿が見られるようになった。友達との関わりではトラブルを重ねながら、やりとりを繰り返し、友達の気持ちに気づけることができるようになってきている。お互いを、“毎日一緒に過ごす仲間”として認め合えるようになってきている。

## ● 3~5歳児 ー 子ども達と話し合いながら、一緒に身体を動かして遊ぶー

各クラスの子ども達の特性を踏まえて、どう保育を進めていくかを考えてきた。3・4歳児は保育士や友達と一緒に基本的生活習慣の確認をしながら、5歳児は自分達で確認して生活を進めていくよう、見守るようにした。4・5歳児は、生活は一緒に、活動は分けて過ごしてきた。生活を分けたことで、互いの姿を見合う機会が少なく、“年上の子から下の子へ伝える”ことや“見て学ぶ”という関わりが少なかった。遊びの中では、3~5歳児がクラスの枠を超えて、交ざって遊ぶ姿も多く、自然に互いを受入れることができていた。運動会では、互いのクラスリズムを見て興味を持ち、クラスを越えて教え合い、子ども達が一緒に踊って楽しむ姿があった。

## 【3歳児】

基本的生活習慣については、理由や手順の確認をしながら進めてきた。保育士がわざと間違えて行い、「違う！ そうじゃないよ」と気付かせることで、保育士が指摘をするよりも、自分達で気付く事ができていた。“丁寧に行う”ということも繰り返し伝えると、友達同士で教え合う姿が見られ始めている。ぴょんぴょん組の時から楽しんでいた“追いかけっこ”も、毎日毎回繰り返して楽しんだことで、“みんなで楽しむ”という姿が自然と増えていった。また、沢山の言葉を獲得する年代なので、言葉遊びも取り入れた。“〇の付く言葉”を考えて、わかりやすく絵にしていく。始めのうちは、思いついた言葉を口にしていたが、やっているうちに“〇が付く言葉”という意味を理解して、発言してくる子が増えた。友達の言葉を聞いたり、保護者の方と一緒に考えて来たり、絵を見て楽しむ姿も多く見られた。そうした中で、保育士とのやりとりが増え、他の場面でも子ども達の発言が増えた。その中の声を拾いながら、保育室に変化を付けたり、活動の内容を広げたり、季節の製作内容を考えていくことができた。

## 【4歳児】

基本的生活習慣（順序等を含め）の確認や生活の流れは絵カードを使用し、聞くだけでなく目で見て分かる、自分で確認出来る様に行っていた。早く済ませようとして、行わなければならぬことを飛ばす、手洗いやうがい、服を畳むことなどが難になっているときには、みんなと一緒に理由を含め確認を行うようにした。急に順番が変わる、環境が変わることで子ども

達が分からなくなってしまわないよう、生活の流れを崩さないということを大切にした。

一年間を通して、クラスのみんなで楽しめる音楽遊びを取り入れていった。はじめは“みんなで”楽しむ事が難しく「疲れるから…」「やりたくないから…」と参加しない子どももいた。子ども達が何を楽しいと思うのかを考えながら色々な歌を試していく中で、みんなで楽しく歌える歌を見つけ、それを用いてリズムの拍打ちや楽器遊びを行っていった。次第に子ども達から「あれやりたい！」「またやろう」と言う声が出てきていた。

自分の思いを言葉で伝えることが難しく、物の取り合いや場所を奪い合う姿があった。保育士と一対一でまずは自分の思いを言葉にするということ、保育士がじっくりと話を聞く事、必要に応じて代弁をする事を心掛けて行った。

## 【5歳児】

とにかくたくさん遊び、楽しいことを考えて子ども達と実現させていくということをしていった。安全面には充分に配慮し、自分達のやりたいことをやるためににはどうすればいいのか、そのためには何が必要なのかを、みんなで話して考えるということを大切にした。良いことも困りごとも、みんなで話して、そこからどうすればよいかを考えることを繰り返していく。その中で「私が」「ぼくが」と自分の思いを表現し、みんなで話して決めていくことが難しい場面も多かったが、まず、話しやすい環境を整え、保育士が一人一人の思いに耳を傾け率直に思ったことを受け止め、自分の考えていることと、相手の考えていることを摺り合わせながら折り合いをつけていくことをしていった。折り合いをつけることは難しいこともあつたが、時間をおいて話を聞いたり、保育士が代替案を考えて提案したりするなど、「こんなやり方もある」ということを示した。いろいろな考え方があるということが分かり、その経験を重ねていくことで、少しでも「みんなで考えてみんなで決める」が出来るようにしていった。

## < その他・取り組んだこと >

- 状況に応じて、子どもの体調確認（視診、触診、検温）を適宜行い、体調の変化に留意した。また、感染症の予防や防止対策として、玩具や施設内の消毒・清掃に努めた。
- 朝・夕の会について各年代で見直し、実践している。
- 職員会議などで人数確認方法や不適切保育についての確認、意識の共有を行っている。
- 日々の保育に活かせるように、各職員が自分で選んだ遊びに継続して取り組んだ。

事業計画を基に、1年間「どのような取り組みを行ったのか」「出来なかった事は何か、またその理由は何か」を話し合い、常に伝え合いと確認を怠ることなく、全職員が1つのチームとして仕事に向かえるようにし、次年度への課題を挙げた。

## 《 次年度の課題 》

- ・保護者の方とのコミュニケーションを密にとれる様にする。職員が意識的に行い、保護者や子ども達への安心感に繋げられるようにしていく。
- ・引き続き、園での取り組みや日々の保育を、分かりやすく伝えられるように努め、実践していく。
- ・ICT化に向け、法人・職員全員で計画、準備をしていく。